

令和5年度 事業計画

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

I 公益目的事業

[公1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管の委員会

(A) 令和5年度延長する研究専門委員会

- 1) 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会
(令和3-5年度)

(B) 令和5年度継続する研究専門委員会

- 2) セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会 (令和4-5年度)
- 3) コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会 (令和4-5年度)

(C) 令和5年度新規の研究専門委員会

- 4) コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会 (令和5-6年度)
- 5) コンクリートのアカデミックデータベースの整理とAIへの活用に関する研究委員会
(令和5-6年度)
- 6) コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会
(令和5-6年度)
- 7) 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会
(令和5-6年度)
- 8) コンクリート用自己治癒材の効果とその評価方法に関するFS委員会 (令和5年度FS)

(2) 技術委員会所管の委員会

- 1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会 (平成29-令和8年度)
- 2) コンクリート基本技術調査委員会 (令和4-5年度)
- 3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会 (令和4-5年度)

(3) 支部研究委員会 (確定している委員会のみ記載)

- 1) (北海道支部) 寒冷環境下におけるコンクリートの品質・耐凍害性確保に関する研究委員会
(令和3-6年度)

- 2) (北海道支部) 時間軸性能評価に基づく北海道地域の構造物設計に関する研究委員会
(令和 4-6 年度)
- 3) (東北支部) 東北地方におけるコンクリート構造物の劣化進行に関する調査研究委員会
(令和 4-5 年度)
- 4) (中部支部) 小規模橋梁を対象としたコンクリート用 DIY 補修のあり方調査研究委員会
(令和 3-5 年度)
- 5) (近畿支部) 百石齋 (田邊朔郎書齋) 調査委員会
(令和 3-5 年度)
- 6) (中国支部) 中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会
(令和 3-7 年度)
- 7) (中国支部) RC 構造物の微生物調査委員会
(令和 4-5 年度)
- 8) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常設委員会)
- 9) (四国支部) コンクリート工の生産性向上のためのトラックアジテータ車の高性能化にする研究委員会
(令和 5-6 年度)
- 10) (九州支部) 九州に堆積する火山噴出物の活用方法に関する研究専門委員会
(令和 4-6 年度)
- 11) (九州支部) 非破壊試験による表層部コンクリートの品質評価に関する研究専門委員会
(令和 5-6 年度)

○延長する研究専門委員会の計画

- (1-A-1) JCI-TC211A 微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張評価と予測に関する研究委員会
(令和 3-5 年度)

ASR や DEF などの内部膨張反応 (ISR) 研究の今後のあるべき方向性を提示することを目的として、微視的機構から構造物の挙動を評価するためのモデリングや試験・分析法の現状と課題の整理などの活動を 2 年間行った。本年度は、これまでに検討してきた内容を報告書として取りまとめ、成果報告会・シンポジウムを開催する。

○継続の研究専門委員会の計画

- (1-B-1) JCI-TC221A セメント・コンクリートの環境影響評価に関する研究委員会
(令和 4-5 年度)

セメント・コンクリートの環境影響を多角的な視点から総合的かつ統一的に評価する手法を構築することを目的とする。具体的には、セメント、骨材等のコンクリート構成材料、コンクリートならびにコンクリート構造物等の環境影響評価のモデルケースを構築し、一般に広く提供することを目指す。本年度は、前年度の活動成果を踏まえ、土木構造物、建築物をモデルケースとして環境影響評価を実施し、CO₂排出量のみ限定されない多角的な評価の有効性、総合的・統一的な評価の妥当性について検討する。

- (1-B-2) JCI-TC222A コンクリート中の鉄筋腐食の統一的な取扱いに関する研究委員会
(令和 4-5 年度)

コンクリートに作用する水が腐食に与える影響について整理し、鉄筋腐食を統一的に取扱うためのシナリオを作成することを目的とする。そのために、前年度に引き続き主に次の2つの活動を行う。1)文献調査を行い、塩化物イオン存在下、あるいはpHが低下した状態において、腐食に与える水の影響を整理し、体系化する。湿度がどの程度以上であれば湿潤状態なのかについては、塩化物イオン量で変わる可能性があるため、必要に応じて室内試験も実施する。2)実際に乾湿繰返しにより腐食が進行している構造物の調査を行い、現場における湿潤と乾燥の影響要因を整理する。本年度前半は文献調査および現場調査を行い、特に乾湿繰返しによる腐食に与える影響因子について整理する。後半は鉄筋腐食を統一的に取扱うためのシナリオデザインの構築を目指す。

○新規の研究専門委員会の計画

(1-C-1) JCI-TC231A コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会

(令和5-6年度)

石灰石微粉末をコンクリート分野においてカーボンニュートラル材料としても積極的に活用していくために、その現況と、効果や課題をとりまとめ、実用に資する資料を提示することを目的として、3つのWGにおいて以下のような活動を行う。①石灰石微粉末を活用したコンクリートの実績について、各種基準類における記載内容の文献調査、コンクリート製造分野における配(調)合の種類等の特徴や出荷実績の詳細なヒアリング調査を行い、実状を明らかにする。②セメント製造分野等において、海外も含めた石灰石微粉末の活用方法の取組みを主に文献をもとに調査するとともに、カーボンニュートラル技術としての石灰石微粉末(炭酸カルシウム粉末)の活用事例も調査し、今後の展望を検討する。③石灰石微粉末の製造・流通の状況、利用する段階での管理方法の実状と課題をヒアリング等で調査するとともに、コンクリート製品などでの効果を評価する実験等も併せて石灰石微粉末の利用の効果を明らかにする。また、材料の規格化の方向性を検討する。

(1-C-2) JCI-TC232A コンクリートのアカデミックデータベースの整理とAIへの活用に関する研究委員会

(令和5-6年度)

コンクリート構造物に関する実務での設計や維持管理体系の高度化に対し、今後活用が期待されるAI・機械学習技術の利用を促進させることを目的として、コンクリートの材料および構造両面でのビッグデータの収集方法の構築と、AI・機械学習への活用方法の提案を行う。具体的には、JCIならびに各種学会で発表された実験および実構造物データを項目ごとに抽出し、これらの整理方法や公開方法を議論し、データを一元的に集約するとともに、これらのデータをAI・機械学習に活用し、コンクリート構造物の構造性能や材料挙動等に関する予測の回帰式等、具体的なモデルの構築手順を提示する。

(1-C-3) JCI-TC233A コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会

(令和5-6年度)

建築・土木構造における、コンクリート構造物の非線形地震応答解析を用いる性能評価型耐震設計法を対象として、米国コンクリート工学会ACI374委員会と戦略的交流の下で、日米の実務

における非線形時刻歴応答解析の用いられ方に関して、適用範囲、コンクリート部材や要素のモデル化、設計クライテリア、信頼性、利用上のルール・留意事項などについての比較を行い、日本の方法の課題の抽出と、改善方策の提案、ならびにその実現のためのロードマップの作成ならびにコンクリート構造の研究コミュニティが取り組むべき研究課題を抽出することを目標とする。

(1-C-4) JCI-TC234A 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会 (令和5-6年度)

現行の定期点検要領との接続を意識しつつ、また「鉄筋腐食したコンクリート構造物の構造・耐久性能評価の体系化研究委員会 (JCI-TC112A)」で問題提起された内容を踏襲すべく、既存実構造物における腐食した鋼材の時空間で変化する腐食量を推定可能とする手法を提示することを目的とする。具体的には、現状の定期点検で得られる情報に基づく対象構造物の選定手法の検討、現時点における鋼材の腐食量を推定可能とする診断手法の検討、その診断手法により得られる離散的な推定値に立脚した腐食量の連続した空間分布の推定手法の検討、ミクروسケールにおける腐食反応モデルのマクروسケールとしての時空間への拡張手法の検討を行う。

(1-C-5) JCI-TC235F コンクリート用自己治癒材の効果とその評価方法に関する FS 委員会 (令和5年度 FS)

環境条件に応じた適切な自己治癒材の選定や適用性を整理し、その効果を実験室レベルで確認する方法、ならびに供用中の構造物における評価方法を確立するため、(1)自己治癒材とセメント硬化体との相互作用、(2)環境ごとの自己治癒コンクリートの適用性、および(3)自己治癒材の効果の評価方法、に関する既往の知見を最新の計測方法を含めて整理し、特にひび割れ補修、防食に特化した自己治癒効果の評価に関する知見をとりまとめる。

○技術委員会所管の委員会の計画

(2-1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会

前年度までの6か年にわたる活動に引き続き、共通試験WGおよびモニタリングWGにて活動を行う。共通試験WGでは、「端島(通称『軍艦島』)における補修材の効果検証に関する共通試験実施についての基本覚書」に則って、端島において様々な補修を施して暴露した鉄筋コンクリート試験体を対象に、定期的に劣化の進行状況や物理的・化学的な変化を観察・測定し、その結果に基づく分析から、塩害劣化の進行・抑制のメカニズムおよび補修効果を検討する。モニタリングWGでは、端島に残存する自然倒壊が間近に迫っている建築物(30号棟)等を対象に実施されている遠隔地モニタリングの結果に基づく分析・解析を行い、鉄筋コンクリート構造物の自然倒壊のメカニズムおよびその時期の予測について検討を行う。

(2-2) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリート工事の実務者を対象に、コンクリートの製造および施工に関わる基本技術と新技術を整理し情報発信を行うことを目的とする。これまで、準備WGで鉄筋工について、品質管理・検査WGで品質管理および検査のあり方について、運搬WGでコンクリートの運搬について

て検討を行ってきたが、本年度は、その成果の取りまとめを行う。

(2-3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会

2018～2021年度に活動した「マスコンクリートのひび割れに関する調査委員会」の成果を基にした「マスコンクリートのひび割れ制御指針」改訂版の2024年刊行を目指しており、本年度は、7つのWG（制御WG，DEF検討WG，ひび割れ照査WG，設計用値WG，簡易評価WG，施工検査WGおよび試験法WG）に分かれて検討した内容を取りまとめた改訂原案を完成させ、規準・指針管理委員会および理事会に諮る。

2. 標準化事業

(1) 規準・指針管理委員会

研究専門委員会および規準・指針原案作成委員会等から提案および審査の申請がなされた規準原案・指針原案に対し、「日本コンクリート工学会規準・指針の制定／改正に関する規程」に基づく審査を行い、妥当と判断された原案については理事会へ付議する。また、制定済みのJCI規準で制定（もしくは前回確認および改正）から5年経過したものについて使用状況の調査を行い、確認／要改正／要JIS化／廃止の判断を行う。

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

2025年度に見直し期限を迎える規格について、改正要否の検討を行う。

(3) ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC71 総会および各 SC の会合に TC 議長・委員会マネジャー，SC 議長・委員会マネジャー，WG コンビーナおよび関連分野のエキスパートを派遣し，日本が主導する規格開発の説明を行い，規格作成に日本の意見を反映させる。
- 2) ISO/TC71 において，次の議長，委員会マネジャー，コンビーナ，エキスパート（WG），および SC 担当委員の役割を遂行する。
 - ① TC71（コンクリート，鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリート）：議長および委員会マネジャー
 - ② SC1（コンクリートの試験方法）：エキスパート（WG）
 - ③ SC3（コンクリートの製造及び施工）：コンビーナおよびエキスパート（WG）
 - ④ SC4（構造コンクリートの要求性能）：エキスパート（WG）
 - ⑤ SC5（コンクリート構造物の簡易設計標準）：エキスパート（WG）
 - ⑥ SC6（コンクリートの新しい補強材）：議長，委員会マネジャー，コンビーナおよびエキスパート（WG）
 - ⑦ SC7（コンクリート構造物の維持および補修）：議長，コンビーナ，エキスパート（WG）
 - ⑧ SC8（コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント）：議長，委員会マネジャー，コンビーナおよびエキスパート（WG）
 - ⑨ TC71/CAG（議長諮問グループ）：コンビーナ

- ⑩ TC71/WG1 (コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント) : コンビーナおよびエキスパート
- ⑪ TC71/WG2 (コンクリート充填鋼管複合構造の設計標準) : エキスパート
- 3) 国内関係機関と連携し、ISO/TC71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。
- 4) 日本から提案する次の ISO 規格案について、国内外において情報収集・意見収集を行うとともに、各国との調整を行い、早期の規格化を図る。

(新規)

- ① コンクリートおよび構成材料への CO₂ 固定量の評価方法に関する国際標準

(継続)

- ① コンクリートの発注・製造・品質管理に関する ISO 22965-1 および ISO 22965-2 (改正)
 - ② コンクリート構造物の地震後継続利用のための性能評価に関する国際標準 (ISO 19338 の Annex)
 - ③ 繊維強化ポリマー (FRP) によるコンクリートの補強—試験方法 ISO 10406-1 および ISO 10406-2 (改正)
 - ④ コンクリート構造物の FRP 補強材 : FRP シートの仕様 ISO 18319 (改正)
 - ⑤ コンクリートおよびモルタル用合成短繊維に関する規格 ISO/PWI 13182
 - ⑥ セメント系材料を用いた補修補強工法に関する規格 ISO/DIS 5091-1~4
 - ⑦ コンクリート構造物の維持補修に関する ISO 16311-1, ISO 16311-2, ISO 16311-3 および ISO 16311-4 (改正)
 - ⑧ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO 13315-1 および ISO 13315-2 (改正)
 - ⑨ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO 13315-3 (構成材料及びコンクリートの製造), ISO 13315-5 (コンクリート構造物の施工) ならびに ISO 13315-7 (最終段階)
 - ⑩ コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントにおける計画・設計段階でのマネジメントに関する規格 ISO/CD 22040-2
 - ⑪ コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントにおける建設 (施工) 段階でのマネジメントに関する規格 ISO/PWI 22040-3
- 5) ISO/TC156/SC1 (Corrosion control engineering life cycle) のリエゾンマネジャーを務める。
 - 6) コンクリート用語 (環境配慮型コンクリートに関する用語を含む) の定義についての検討 WG 発足を ISO/TC71 へ提案すべく、その準備に向けたタスクフォースを ISO/TC71 対応国内委員会に設置して活動を開始する。

(4) 再生骨材に関する JIS 改正原案作成委員会

2022 年度に作成した再生骨材および再生骨材コンクリートに関する JIS 改正原案について、日本規格協会との調整および日本産業標準調査会での審議結果を踏まえて、修正・追加を施す。

JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材 H)

JIS A 5022 (再生骨材コンクリート M)

JIS A 5023 (再生骨材コンクリート L)

3. 国際化事業

(1) *fib*

技術評議会と総会に代表委員を派遣する。

(2) ACI

1) 代表委員を派遣する。

2) 4月1日～5日に米国(サンフランシスコ)にて開催される 2023 ACI Concrete Convention にて、ACI と協力して ACI-JCI 6th Joint Seminar を実施する。

(3) RILEM

RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。

(4) ACF

代表委員を派遣するとともに、ACF の諸事業活動を積極的に支援する。ACF 総会・Executive Council 会議等の時期や場所の詳細は未定である。

(5) TCI

7月6日に福岡で第3回 JCI-TCI ワークショップを開催する。

4. 受託研究事業

(1) ISO/TC71 対応国内委員会

国際標準の開発を目的とした次の受託研究業務を実施する。

1) Sustainable Development Goals の達成を実現するレジリエントなコンクリート構造物の整備に関する国際標準化 (TC71 幹事国対応業務を含む。)

(2) カーボンリサイクル評価方法の JIS 原案作成委員会

コンクリートおよび構成材料に固定化された二酸化炭素の評価に関する JIS の開発および国際標準化に向けた準備・対応を行う。

5. 出版事業

(1) 2023 年度コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'23」

(2) コンクリート技士・主任技士研修テキスト「2023 年度コンクリート技士・主任技士研修テキスト」

(3) コンクリート診断士研修資料「コンクリート診断士研修資料'23」(ダウンロード版)

(4) コンクリート診断士講習テキスト「コンクリート診断技術'24」

(5) コンクリート工学年次論文集 第 45 巻 2023 年 (DVD 版)

(6) Technical Committee Reports 2023 (JCI 研究委員会報告書要旨：電子公開)

- (7) 「微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張反応の評価および予測に関するシンポジウム」委員会報告書・論文集

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

「コンクリート工学」を毎月1回刊行して会員に頒布する。また、会員には発刊1年後に電子公開し、非会員には3年後に電子公開する。

年3回の特集号のテーマは以下のとおり予定している。

- | | |
|------------------|----------|
| 1) リニューアル・解体・再利用 | 2023年5月号 |
| 2) 炭酸化/中性化(仮) | 2023年9月号 |
| 3) (未定) | 2024年1月号 |

また、文献調査委員会により審議された「レビュー論文」を年9回掲載する。

(2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集を電子公開する。

(3) 英文ジャーナル “Journal of Advanced Concrete Technology”

英文ジャーナル“Journal of Advanced Concrete Technology”を電子公開する。表紙および紙面デザインを変更する。

7. 広報事業

(1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。社会一般に向けた啓蒙活動として、広報委員会のもとでJCIホームページの内容向上を図るとともに、会誌「コンクリート工学」、パンフレット(和文、英文)等により本学会の活動について広報活動を行う。

(2) 普及活動

普及委員会のもとに以下の専門委員会を設置し活動する。

1) マスコンクリートソフト普及委員会

温度応力に加え湿気移動を考慮した乾燥収縮および自己収縮を考慮した3次元応力解析ソフトJCMAC3、初期応力を考慮した3次元保有耐荷力解析ソフトJCMAC3-U、2次元温度応力解析およびひび割れ幅解析ソフトJCMAC1・2のサポートならびに普及を図る。令和5年度の主な活動は以下のとおりである。

- ① JCMAC1・2, JCMAC3, JCMAC3-Uのバージョンアップ
・新たなクリープモデルの追加など
- ② JCMAC3 初級セミナー(1回)の開催
- ③ JCMAC3-Uの英語版の海外への普及活動
JCI年次大会(九州)での第3回JCI-TCI Workshopの開催

- ④ JCMAC3-PS の開発
(JCMAC3-U にプレストレスの導入を考慮できる機能を追加したバージョン)
 - ⑤ YouTube を利用した JCMAC3 Tutorial 動画の作成・公開
 - ⑥ JCMAC1・2, JCMAC3 および JCMAC3-U のサポート
- 2) コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針普及委員会
令和 4 年度に改訂された「コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針 2022」の講習会の実施等により同指針の普及を図る。主たる活動は以下のとおりである。
- ① 国内講習会 (札幌, 仙台, 福岡) の実施
 - ② 海外講習会 (バンコク, ビエンチャン) の実施
 - ③ 2022 年版指針本体に対する質問や修正指摘等への対応
 - ④ 2022 年版指針マンション編に対する質問や修正指摘等への対応
 - ⑤ 2022 年版指針ひび割れ判定ソフト Web 版に対する質問や修正指摘等への対応
 - ⑥ 2022 年版指針英文化の準備
- 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会
現行の「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト LECCA シリーズ」の普及活動に加え, LECCA シリーズをベースとした初学者向けの教育プログラムを作成する。また, コンクリート構造物の耐久設計や維持管理に関する知識と経験が不足している初学者向けの講習会や大学等での講義への活用方法を検討するとともに, その成果を教育プログラムの改良に繋げる。

(3) 電子情報化

情報コミュニケーション委員会において, 本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行い, 定期的な更新による情報発信および広報活動を主な事業活動とする。活動は以下のとおりである。

- 1) 月刊コンクリート技術 (一般向けコンテンツ) を制作・公開する。
- 2) メールニュースを作成し配信する。
- 3) 研究委員会報告書を会員専用ページに電子公開する。
- 4) 過去コンテンツ (増刊コンクリート技術等) の管理を継続する。
- 5) ホームページを活用したコンクリートに関する技術や研究成果の普及に向けた取り組みを行う。
- 6) ホームページを活用した広報に関する方策を検討する。
- 7) ホームページの追加リニューアル内容 (英語版 HP 等) を検討する。

(4) JCI 創立 60 周年記念事業

2025 年 7 月に JCI 設立 60 周年記念事業を実施する。JCI 創立 60 周年記念事業実行委員会にて具体的な当該記念事業の実施内容の決定および準備作業を行う。

8. 関連学会との協力活動

(一社)「防災学術連携体」および日本原子力学会主催「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議」に委員を派遣するほか、「建設系7学会会長会議」に参画するなど、他学協会との協力活動を行う。

9. 助成金事業

助成金制度規則に基づき、コンクリートに関する研究助成およびコンクリートに関する国際会議参加助成を行う。

[公2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2023 (九州) を7月5日(水)～7日(金)の3日間、福岡国際会議場で開催する。

- 1) 第45回コンクリート工学講演会
- 2) 生コンセミナー：テーマ「サステイナブルな生コンを目指して」
- 3) コンクリート構造物診断セミナー：テーマ「道守養成講座15年間のあゆみと今後の展望」
- 4) 特別講演会：講師 石田哲也氏（東京大学大学院工学系研究科・教授）
演題 「コンクリート工学におけるDX」（仮題）
- 5) 見学会：2コースを予定
- 6) 懇親会：福岡サンパレスホテル
- 7) 特別企画：キング・オブ・コンクリート

2. 講演会, 講習会, シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

2023年度コンクリート技術講習会を10月～11月にかけてオンライン（オンデマンド形式）で実施する。

(2) 研究委員会

研究委員会所管のシンポジウムを次のとおり開催する。

- 1) 「微視的機構に基づくコンクリート構造物中の内部膨張反応の評価および予測」に関するシンポジウム
日 時：9月22日(金) 時間未定
場 所：対面（東京都内）＋オンライン（ライブ形式）

(3) 普及委員会

普及委員会所管の講習会、セミナーを次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針2022」講習会

日 時：未定（札幌会場）

場 所：未定

日 時：未定（仙台会場）

場 所：未定

日 時：未定（福岡会場）

場 所：未定

2) 「マスコンクリートソフト普及委員会」JCMAC3 初級者セミナー

日 時：未定

場 所：未定

3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト（LECCA シリーズ）講習会

日 時：未定

場 所：未定

（4）支部

支部主催の講演会，講習会，報告会，見学会を次のとおり開催する。（確定している項目のみ記載）

1) （北海道支部）「コンクリートの日 in HOKKAIDO」見学会

日 時：9月5日（火），6日（水）

場 所：函館市

2) （北海道支部）「コンクリートの日 in HOKKAIDO」出前講座

日 時：9月頃

場 所：未定

3) （北海道支部）支部設立 30 周年記念式典

日 時：9月28日（木）

場 所：札幌ガーデンパレス

4) （東北支部）「コンクリートの施工の良否が材料劣化に及ぼす影響に関する調査研究委員会」報告会

日 時：未定

場 所：未定

5) （東北支部）第 18 回コンクリート診断技術研鑽のための勉強会

日 時：未定

場 所：未定

6) （関東支部）支部総会特別講演会

日 時：5月30日（火）

場 所：未定

演 題：未定

講 師：未定

- 7) (中部支部) 支部活動報告会特別講演会
日 時：5月30日(火)
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 8) (中部支部) 支部総会特別講演会
日 時：令和6年1月
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 9) (中部支部) 中部支部30周年記念講演会
日 時：未定
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 10) (近畿支部) 支部総会特別講演会
日 時：5月19日(金)
場 所：エル・おおさか(ハイブリッド形式)
演 題：未定
講 師：未定
- 11) (中国支部) 支部総会特別講演会
日 時：5月19日(金)
場 所：未定
演 題：未定
講 師：未定
- 12) (中国支部) 学生研究発表会
日 時：11月～12月
場 所：未定
- 13) (中国支部) 「わかりやすいコンクリート」講習会
日 時：12月
場 所：岡山県
- 14) (中国支部) 「中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会」報告会
日 時：令和6年3月
場 所：未定
- 15) (四国支部) 「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」活動報告会
日 時：5月16日(火)

- 場 所：リーガホテルゼスト高松
演 題：コンクリート甲子園への挑戦・防災かまど製作について
講 師：松川将大氏（徳島県立つるぎ高等学校）
- 16) (四国支部) 支部総会特別講演会
日 時：5月16日（火）
場 所：リーガホテルゼスト高松
演 題：茅葺・茅採取ワークショップの実践：四国南西部の茶堂と四国カルスト
講 師：釜床美也子氏（香川大学）
- 17) (四国支部) 生セミナー in 徳島
日 時：未定
場 所：未定
- 18) (四国支部) コンクリート技術研修会
日 時：未定
場 所：未定
- 19) (四国支部) コンクリートに関する技術情報交換会
日 時：上期1回、下期1回
場 所：オンライン（ライブ形式）
- 20) (四国支部) 見学会
日 時：9月25日（月）
場 所：松山自動車道4車線化
- 21) (九州支部) 支部活動報告会特別講演会
日 時：4月21日（金）
場 所：リファレンス駅東
演 題：コンクリートの環境対応技術の開発
講 師：小島正朗氏（竹中工務店技術研究所）
- 22) (九州支部) 九州支部第5回学生シンポジウム
日 時：未定
場 所：未定

[公3 表彰事業]

1. 学会賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

(1) 論文賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し「日本コンクリート工学会賞（論文賞）」を贈り表彰する。

(2) 技術賞

本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著者に対し「同(技術賞)」を贈り表彰する。

(3) 作品賞

コンクリート構造物の美的価値、創造性および環境との調和において技術面も含めて優れている造形物を対象に、その構築に貢献した者に「同(作品賞)」を贈り表彰する。

(4) 奨励賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に、40歳未満の著者に「同(奨励賞)」を贈り表彰する。

(5) 功労賞

本学会事業の発展のために長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同(功労賞)」を贈り表彰する。

2. 支部表彰

以下の5つの支部において支部表彰を行う。

(1) 北海道支部

支部功績賞、支部優秀学生賞の対象者を募集し、支部のコンクリート工学の発展に著しい貢献をした者および優れた研究成果をあげた学生に対してそれぞれ表彰する。

(2) 東北支部

論文賞・技術賞・功労賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。

(3) 近畿支部

支部奨励賞の対象者を募集し、コンクリートに関する優れた論文あるいは報告の40歳未満の著者に対して表彰する。

(4) 中国支部

コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター認定者」とする。

(5) 九州支部

九州・沖縄地区の大学、大学院、高等専門学校において、コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生、修了生に支部長賞を与える。

II 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・コンクリート主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・主任技士試験

コンクリート技士・主任技士試験を11月26日(日)、全国9都市において実施する。

(2) コンクリート技士・主任技士研修

コンクリート技士制度に基づくコンクリート技士・主任技士研修を、登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート技士・主任技士登録者および未登録者を対象として、eラーニングにて、8月22日(火)から9月29日(金)まで実施する。

(3) コンクリート技士・主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて、コンクリート技士・主任技士研修を受講し、登録有効期間(4年間)満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート技士・主任技士試験合格者の申請により登録を行う。

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習

コンクリート診断士講習をeラーニングにて、4月7日(金)から5月19日(金)まで実施する。

(2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を7月23日(日)、全国9都市において実施する。

(3) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士制度に基づくコンクリート診断士研修を、登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート診断士登録者および未登録者を対象として、10月にeラーニングにて実施する。

(4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士研修を受講し、登録有効期間(4年間)満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート診断士試験合格者の申請により登録を行う。

3. 資格・講習委員会

各資格関係委員会での検討内容を審議、承認を行う。また、コンクリート技士・主任技士およびコンクリート診断士の合格者の内定を行い、理事会に付議する。その他、必要に応じて資格審査会の開催ならびに国土交通省技術者資格の登録・更新を行う。

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ2023

コンクリート工学年次大会 2023 (九州) と併行して、コンクリート関連企業および団体による、新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

Ⅲ その他

1. 名誉会員の称号授与

本学会の目的達成に多大な貢献をした会員に、名誉会員の称号を贈る。

2. 終身会員およびフェロー会員の称号授与

コンクリート工学の見識に優れ、本学会の活動を長年にわたり支援した会員に終身会員の称号を、また、コンクリート工学の見識に優れ、責任ある立場で長年にわたり指導的役割を果たし社会に貢献した会員にフェロー会員の称号を贈る。

3. 定款・規則改定

定款の改定、学会規則の改定に関して審議し、理事会に付議する。

4. 選挙管理委員会

代議員選挙に関する検討を行う。

以上